ミドリ

midori
No.123
Winter
2021

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

三浦半島の「もり」を海から見る

ナラ枯れの薪を有効活用　マキ寄付開始

かながわの未来に、今できること

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。1万人を超える会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

045-412-2525
midori@ktm.or.jp
@kanagawa_midori
facebook.com/ktm.or.jp
kanagawa_trust

CONTENTS
もくじ

自然へ一歩

小網代干潟の小さな貝たち
NPO法人小網代野外活動調整会議
江良 弘光 1

三浦半島の「もり」を海から見る
―「もり」はいつから「もり」だったのか―
葉山しおさい博物館 倉持 卓司 2

令和3年度
緑化運動・育樹運動コンクール 8

みどりのトラスト講座（後編）
初夏の小網代の森
ガイドウォーク
慶應義塾大学名誉教授 岸 由二
2021 ミス日本みどりの女神 小林 優希 10

自然観察・体験イベント
森林ボランティア 14

事務局だより

ナラ枯れ薪の有効活用
～マキ寄附の協力者に配送中～

手提袋有料化に伴う寄附
京急百貨店

書籍プレゼント
「干潟に生きる小さな貝たち」 15

財団事業にご支援をお願いします 17

会員の皆さまへ

※転居先不明で返送されるケースが増えています。住所などの変更がありましたらご連絡ください。

※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト（https://ktm.or.jp）で読むことができます。個別の発送停止をご希望の方は財団事務局までご連絡ください。

表紙の写真

コリドー（緑の回廊）を丹沢から

10月、287名が唐ぐわと鎌を手に持ち、
広葉樹の苗木を1人あたり3本程度を植栽しました。
（場所：秦野市菩提峠（ぼだいとうげ））

記事▶P9へ

会員数＆寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。どなたでも会員になれます。ご支援ください！

普通会員　かながわのみどりを守り育てる運動を支える会員です。

トラスト会員	普通会員（年会費）	
個　人	大　人	2,000円
	小学生500円、中・高校生1,000円	
家　族	1家族	3,000円
法人/団体	1　口	10,000円

トラスト緑地保全支援会員（オプション）
普通会員の方に任意の加入で特定の緑地を支援していただく会員です。

トラスト緑地保全支援会員 任意加入（年会費）		
個人/家族		3,000円
法人/団体	1　口	10,000円

※5年分の会費を1回でお払いいただくと6年間会員になれます。

財団への会費や寄附は税額控除の対象になります。

現在の会員数

（2021年9月末現在）

	普通会員	緑地保全支援会員
個人会員	3,598人	455人
家族会員	5,981人	727人
法人・団体会員	275人	30人
特別・名誉会員	314人	
計	10,168人	1,212人

遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、遺贈を受けた公益事業を開始しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

「かながわトラストみどり基金」への寄附状況

寄附累計額（2021年9月末現在）　14億4,870万0,089円

寄附者名（2021年7月分～9月分）※敬称略、アイウエオ順

イオンビッグ株式会社、イオンペット株式会社、齋藤友佳理、藤崎英輔、マックスバリュ東海株式会社

「かながわトラストみどり財団」への寄附

財団へ寄附をいただきましたのでご紹介します。誠にありがとうございました。

寄附者名（2021年7月～9月）（敬称略）

秋山 裕子、アサヒ飲料販売㈱、阿部 牧雄、荒金 芙美代、安藤 誠治、飯田 英榮、池谷 善博、石﨑 東雅、板橋 奈津子、井上 敬孝、宇田川 敏枝、梅川 照子、大久保 儀治、尾﨑 俊朗、落合 徳代、小野 桂、鎌田 美和、菊池 丈治、久保 智子、久保 幸子、熊坂 正、黒元 勇、小網代会館、児玉 英二、齋藤 友佳理、齊藤 吉之・和子、佐藤 三郎、重野 光喜、柴崎 えつ子、渋谷 僚、清水 健二、清水 紀彦、菅野 実、杉崎 敏明、曽根 よしみ、髙橋 敏雄、田村 光子、千々輪 悦子、辻 一男、津戸 芳子、円谷 周平、日産プリンスかながわ販売労組、橋本 清、長谷川 喜美江、林 洋子、播摩 英一、深井 三惠子、福手 健夫、藤田 正敬、堀井 成子、松田 直、松本 敏彦、丸山 和弘、皆本 寛子、桃川 妙子、㈱ヤマシゲ、山村 宣夫、山本 勝久、与儀 達晴、横山 ヒデ子、渡部 明

※掲載の承諾をいただいた皆さまをご紹介させていただいております。

小網代干潟の小さな貝たち

イラスト・写真・文：NPO法人小網代野外活動調整会議　江良（えら） 弘光（ひろあき）

小さな貝の調査方法

干潟の貝というと、アサリ・ハマグリなど潮干狩りでとれる大きくておいしい貝が一番に思い浮かぶかと思いますが、干潟の砂の中には、他にも無数の貝が暮らしています。とはいえ、それらの多くは1センチにも満たない小さな貝で、いても気づかないのも無理のない話です。また、こうした小さな貝は環境の変化に弱いものが多く、多くの干潟で数を減らしているのでなおさらです。

そんな中、小網代の干潟には今もこうした小さな貝がたくさん暮らしている事が、小網代野外活動調整会議の調査で確認されています。そしてその多くが絶滅危惧種でもあります。とにかく小さいので簡単には見つからないのですが、それらが明らかになったのは30年以上小網代干潟の調査を続けた小倉雅實さんの丹念で地道な調査のおかげです。

こうした小さな貝を顕微鏡で見ると、色も形も様々で、色とりどりの宝石がはい回っているようです。その姿はとてもかわいくて神秘的です。また、暮らしぶりもユニークなものが多いのですが、紹介するには紙面がたりません。興味がおありの方は小倉さんの「干潟に生きる小さな貝」*という著書をご覧ください。小さな貝たちの意外な暮らしぶりにきっとビックリしますよ。

*巻末にプレゼントのお知らせがあります。

三浦半島の「もり」を海から見る

2021年「トラスト緑地周遊クルーズ」は小網代から逗子までクルージングしながら、地層や植生などを学ぶイベントでしたが、残念ながら中止となりました。そこで、講師の倉持さん執筆による模擬クルーズを特集記事としました。クルーズ写真は2020年に実施したものです。

―「もり」はいつから「もり」だったのか―

葉山しおさい博物館　倉持 卓司

はじめに

物事の一部分や細部に気を取られて、全体を見失うことを「木を見て森を見ず」ということわざで表すことがある。このことわざの「木」は、おそらく「もり」の中で見ているのだろう。では、「もり」全体を見るには、どこから見れば良いのだろうか。「もり」から離れて見れば良いのだが、どれくらい離れれば「もり」の全体像が見えるのだろうか。空から「もり」を見る方法がある。インターネットの普及した現在では、Google Earthなどで自宅でも簡単に衛星画像が閲覧できる時代となった。また、別の手段として海から「もり」を見るという方法がある。陸地の一部が海などの水域に突き出た地形の岬や半島では、この方法で離れた位置から「もり」全体を見ることができる。三浦半島の沿岸部を船に乗って、少し優雅に普段見慣れた視点とは違う位置から「もり」を見ると、今まで気づかなかったことも見えてくることがある。

三浦半島を海から見ると

船に乗り海上から三浦半島を見ると、陸域部は、海岸線の直ぐ後ろからほぼ植物の緑に覆われている。海岸沿いの崖地にも、植物に覆われている場所がある。この緑色の景色を果たして「もり」と言って良いのだろうか。木が生い茂る景色は、「もり」や「はやし」という言葉で表されている。この言葉の、どちらが三浦半島の景色には当てはまるのであろうか。鎮守の「もり」はあっても、鎮守の「はやし」はないと四手井（1974）が記述しているように、「もり」と「はやし」という2種類の言葉は意味があって分けられている。四手井（1974）は、「もり」を木の茂った山のことを意味するとし、これに対して「はやし」は、人手を加えて造成した樹群と定義している。また、ある密度以上にこみあって集団をつくり、その集団がある広さをもって土地を占有している状態を「森林」としている。ただ、三浦半島の緑のほとんどは、内陸の山間部に見られるような、規則正しく植林されたスギやヒノキの人工林の景色とは明らかに異なることは、海上からでも見てとれる。三浦半島の緑は「もり」と呼んで差し支えないだろう。

三浦半島の地層

三浦半島は太平洋プレートとフィリピン海プレートという2つの海洋プレートが陸上プレートである北米プレートの下に潜り込む三重会合点の近くに形成された半島である。この形成過程は房総半島とほぼ同様であると推測されている。三浦半島を形成する地層は北部から葉山層群、三浦層群逗子層、池子層、三崎層群三崎層、初声層に区分（図1）される。また、葉山層群や三浦層群の上には地磁気逆転の時代として一躍脚光を浴びたチバニアンの時代に相当する宮田層が堆積している。最も古い葉山層は約1,800-1,400万年前の深海底で形成された地層が陸側に付加し、三浦半島の北部を形成している。約1,000-470万年前の火山噴火による堆積物で構成される三崎層も同様に付加し、三浦半島の南部を形成している。これらの地層の付加により形成された地形の谷を時代ごとに異なる起源の堆積物が充填することにより現在の三浦半島の地形が成立している。それほど広くない半島内に複数の地層が断層で区切られパッチ状に並んだ特殊な地質構造の地域である。三浦半島が陸化したと考えられる約50万年前より古い地層は、すべてが海底で堆積した地層であることから、「もり」が形成されるのは、それ以降に限られる。また、現在の三浦半島の原型は約 50万年前以降に陸化し形成されていたが、海水面はその後の時代でも大きく変動し、約8,000-5,000年前は、縄文海進に伴い2-5m程度海水面が上昇している。沿岸域の低地は、この時代には海水が侵入し、おぼれ谷が形成されていた。つまり、船上から見ることのできる市街地のほとんどは、この時代、水面下に沈んでいたと考えられている。その後、海水面は徐々に低下し、低地は広い干潟環境に変わった。したがって、陸化後すぐに「もり」が形成できたのは、海水面変動に伴い淡塩漸移帯（たんえんぜんいたい）が移動したと仮定しても、現在、三浦半島で最も高い大楠山（標高241m）を中心とする、ごくわずかな地域だけであろう。

三浦半島では、横須賀市林で発掘された船久保遺跡など後期旧石器時代の遺跡が報告されていることから、三浦半島にヒトが入植したのは、およそ3万年前より後と考えられている。しかし、実際に環境を遷移させるほどの大きな介在は、人口が一定数まで増加し、定住生活を行いはじめた縄文時代以降と考えられる。逗子市桜山から葉山町長柄にかけての丘陵上には長柄桜山古墳群と命名された神奈川県内で最大規模の前方後円墳群があり、およそ1,600年前（古墳時代）には、関西圏と繋がりのある文化圏が三浦半島にも存在していたことが示されている。

図1　三浦半島の地質概略図、柴田ほか（2021）を元に作図

図2
a: 1907（明治40）年-1918（大正7）年の三ヶ岡山(大峰山)の景色。
　わずかにクロマツの高木が見られる
b: 2021年10月の景色

前方後円墳が逗子海岸を見下ろすことのできる桜山の山頂に造られていることから、少なくとも1,600年前までには、周辺地域に一定規模の集落が存在し、そこに住む人々による「もり」の樹木の利用により、三浦半島の北部から「もり」は、ほぼ消失していた可能性が考えられる。その後、鎌倉時代には鎌倉、江戸時代には江戸を中心とした都市部の人々の生活を支える燃料の供給地として三浦半島の「もり」は利用され続けていたことが、古文書などから読み解くことができる。三浦半島の「もり」は、これらの時代を通じて、人口の集中する都市部で消費する薪炭材の供給地として利用が続けられていたことから、少なくとも1,000年近く、極わずかな範囲にしか「もり」は存在できなかったと考えるのが妥当であろう。

明治時代以降の三浦半島の「もり」の遷移

1871(明治4)年に東京大阪間ではじまった官営の郵便事業は、1873（明治6）年に通常はがきの使用が認められ、1900（明治33）年には私製絵はがきの使用が認められた。現在のようにテレビなど映像情報をデジタルで伝達する手段のなかった時代に、絵はがきは画像情報を入手する手段の一つとして利用されていた。絵はがきは、年代により表面の印刷が異なるため、容易に年代を特定することが可能である。

一例として明治時代末期から大正時代初期に撮影された葉山町三ヶ岡山（大峰山）の絵はがきの画

像を手がかりに当時の植生を復元してみる（図2）。絵はがきには広葉樹の樹形はほとんど写っていない。山の斜面にはパッチ状に裸地や草地が存在している。高木は、わずかに山頂部にクロマツが数本写っているだけである。この絵はがきから読み取れる植生は、1880（明治13）-1886（明治19）年に大日本帝国陸軍参謀本部陸地測量部によって作成された迅速測図や、迅速測図を作成する際に作成された偵察録や皇国地誌の記述からも読み取ることができる。皇国地誌の記述には「官有ニ屬ス本村ノ西ノ方字三ヶ岡ニアリ東西五間一尺五寸南北弐十間面積三畝拾三歩松樹ノミ圍ミ壱尺ヨリ五尺ニ至ル物アリ」とあり、三ヶ岡山には30-150cm程度のマツ林しか存在していなかったことが分かる。明治時代の三ヶ岡山は、ほとんどがハチジョウススキなどの萱場であり、その周辺にマツ林が存在していたと思われる。同様に三浦半島全域を俯瞰すると、明治時代の三浦半島の山間部はほぼマツ林であり、農耕に適さない急傾斜地にのみ、わずかに広葉樹林が認められる。また、ほとんどの台地上面は畑地、谷戸は水田として人為的に利用されていたとされる（山田ほか, 1997）。これらのことから、山地も一部を除いては耕地や萱場として利用されていたため、明治時代の三浦半島には今のように海上から「もり」と認識できる景観はほとんどなかったと考えられる。

三浦半島は終戦まで軍の要塞地帯に含まれていたため、森林植生に関する調査研究がなく、終戦後まで断片的な記録しかない（谷口,1953）。谷口（1953;1956）の行った1950-1952年の調査では、自然植生である常緑広葉樹林は、ほとんどが社寺林であり、落葉広葉樹林はコナラが優占していたと記述されている。その後に作成された宮脇（1969）では、クロマツ植林の判例が記録されており、クロマツの植林は、広葉樹の二次林と重複している場所が多くみられる。明治-大正時代に比べ水田と畑地の面積は減少し、住宅地の面積が著しく拡大している。また、マツ林の面積は急激に減少する一方、減少した畑地を中心に広葉樹林が増加している。

現在の三浦半島は、市街地が内陸に向かって拡大し、同時に南部を中心に畑地面積が拡大している。かつて沿岸域に存在していたクロマツ林は減少し、三浦市城ヶ島や葉山町一色など一部の地域にクロマツを植栽した植生がみられるのみとなっている。山田ほか（1997）は、沿岸部はイノデ-タブノキ群集やヤブコウジ-スダジイ群集の常緑広葉樹林が形成され、内陸部にはオニシバリ-コナラ群集などの代償植生として、亜高木層のコナラ、オオシマザクラ、イヌシデなどの落葉広葉樹と低木層のシロダモ、ヒサカキ、ヤブツバキなどの樹種からなる広葉樹林が形成されているとしている。

大正時代以降の三浦半島の植生は、明治時代以前の薪炭林として過度の利用がなくなったことから、クロマツ林が衰退し、二次林である落葉広葉樹林に遷移したと考えられる。ただし、この遷移は谷口（1953）がすでに指摘しているように、林床の落葉かきや刈払いの結果、アズマネザサ群落が形成されている地域や移植された広葉樹を優占種とする群落が含まれている。

図3
神奈川県三浦郡葉山町三ヶ岡山(大峰山)の植生の遷移
地図・空中写真閲覧サービス(国土地理院)
(https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1)の
データをもとに作成.

海から見た「もり」は、いつから「もり」だったのか

いつからこの場所に「もり」があったのかを考えてみたい。地域の年配の方々にこの質問をすると、そこにはずっと昔から「もり」があったとおそらく口を揃えて答えるだろう。それは事実なのだろうか。彼らが口にする「昔」とはいったい「いつ」のことなのだろうか。先ほどの絵はがきのように作成年代を特定できる情報を並べてみると、全く異なる事実が見えてくる。再び前述の葉山町にある三ヶ岡山を例にすれば(図3)、明治-大正時代にみられる、クロマツ林と萱場、畑地からなる景色は、1946年に米軍が撮影した空中写真からも確認することができる。したがって、少なくとも明治時代末期から1946年までの40年近く、三ヶ岡山の植生の遷移はほぼ認められないことから、同じような利用が続けられ、植生の遷移は停滞していたと推定される。その後、定期的に撮影されている国土地理院の空中写真を年代ごとに並べてみると、放置された丘陵部のクロマツ林が衰退し、徐々に広葉樹が広がりを見せてくる。現在の景色の原型に近くなるのは1970年代のことである。現在みられる落葉広葉樹林が「もり」と呼べる景色に遷移したのは、現在(2020年代)を起点とすると、およそ50年前となる。この「もり」の一部は、2020年頃からカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、コナラやマテバシイなどのナラ科の樹種を中心とした枯死が顕著になり、再び裸地やギャップが形成されつつある。この要因として、過去には薪炭林として20-30年程度の間隔で伐採されていたものが、1950年代以降、利用がなくなり放置されてきたことや、化学肥料の普及などにより、谷口(1953)が報告していたような、林床の落葉かきや刈払いなどがなくなり、林野の利用が変化したことなどが挙げられるだろう。

海から見た、三浦半島の過去・現在・未来

船から見える三浦半島の「もり」は、ここ50年前後に形成された近年の風景であり、過去には「もり」と呼べる風景は存在していなかったことが、科学的に解釈できる。風景が変わってしまったことにより、かつて漁師たちが沿岸域で漁労活動を行うときに伝統的に行っていた、海上から見える高木や稜線の位置などから漁場や暗礁などの位置を知る方法であった「山立て」ができなくなってしまった。同時に沿岸域から、漁業対象とされる水産物の棲息個体数が減少し、漁業従事者そのものも著しい減少傾向にある。沿岸生態系の基礎生産は、「もり」をはじめとした陸上生態系起源の物質循環に影響されている。沿岸生態系の遷移を理解するためには、同時に陸上生態系の動態を知る必要がある。

現在、三浦半島に存在している「もり」は、現在の「もり」で起きていることだけでなく、過去に起きたことの延長線上にもある。これは、現在の「もり」だけを見ていても、「もり」を理解することはできないことを意味している。生物そのものの存在が系統的な連続性をもつ以上、生物により形成されている生態系もまた過去とひとつながりの関係であることは自明である。これは三浦半島に限ったことでなく、いずれの生態系においても同様である。そして、現在の生態系の延長線上に未来の生態系が存在することもまた事実である。言い換えれば、海から俯瞰した三浦半島の「もり」の延長線上に、私たちが望む景色なのか、望まない景色なのかは別として、未来の「もり」の景色が存在しているのである。

21世紀は環境の時代ともいわれ、地球温暖化や環境汚染、爆発的な人口増加、生物の絶滅など、いわゆる「環境問題」とされる人類共通の問題は叡智を結集して解決すべきものとして位置付けられている。しかし、改めて科学的な視点からそれぞれの問題を見直してみると、いずれも科学の問題というよりは、経済の問題であるように思えてならない。また、現在だけしか見ていない、狭量的な視点に偏りがちになっているようにも思える。「もり」も、これらの環境問題と同じように考えることができないだろうか。一般的にイメージされる「もり」の風景は、環境問題が顕在化した1980年代以降の里山の風景であり、日本列島にヒトが定住してから長い間存在していた「もり」の風景とは、全く異なるものである。1980年代のアニメなどに描かれた里山の風景は、実際には放置林の姿であり、本来そこに存在していた「もり」の姿とはかけ離れている。このような指摘は実のところ目新しいものではなく、1970年代に一部の生態学者によりすでに指摘されていたことである(例えば四手井,1974など)。ある事象を論理的に説明する科学の視点ではなく、自分にとって好ましい環境や、選択的に好みの生物だけを保護するなどの感覚的な視点からしか物事を考えないという多くの人々の姿勢が、このような間違いの一因ではないかと私は考えている。これはヒトという生物が、本来、もっともエネルギーを消費する脳という器官をいかに使用せずに効率的に生存するかという、生物のもつ根源的な生存戦略の法則に基づく帰結点と言い換えることができるかもしれない。「環境問題」を議論する前に、進化により獲得されたヒトの思考のメカニズムを理解し、その特性を考えた上で、もう一度、広い視野から「環境問題」を見直す必要があるのではないだろうか。

船上で潮風に吹かれながら三浦半島の風景を眺め、そんなことを考えてみた。

引用文献
四手井綱英, 1974. もりやはやし　日本森林誌. 206pp. 中央公論, 東京.
柴田健一郎・野崎 篤・高橋直樹・笠間友博・西澤文勝・田口公則, 2021. 三浦半島の新第三系と第四系:付加体－外縁隆起帯－前弧海盆堆積物. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学), (16): 69-106.
谷口森俊, 1953. 三浦半島の森林植生. 植物生態学会報, 3(1): 32-37.
谷口森俊, 1956. 三浦半島の落葉樹林. 日本生態学会誌, 6(3): 96-98.
山田麻子・原田洋・奥田重俊, 1997. 三浦半島南部における明治期の植生図化と植生の変遷について. 生態環境研究 4(1), 33-40.
宮脇昭, 1969. 三浦半島海岸公園予定域の陸上植生の生態学的研究. 相模湾海中公園適地調査報告書、84-116. 横浜.

プロフィール
倉持(くらもち) 卓司(たかし)
葉山しおさい博物館勤務。
海洋生態学・古生物学・地質学の研究を行なっている。

令和3年度 緑化運動・育樹運動コンクール

「緑化運動・育樹運動コンクール」は、緑の募金によって行われています

ポスター原画コンクール

【総評】2年続けてのコロナ禍のコンクール。外に出られずステイホームの生活が続きました。今年も体験をもとにした作品より身近な樹木や緑化への思いをこめた作品が多くみられました。

最優秀賞

【小学校の部】

「緑へ金メダル」

伊勢原市立大田小学校 4年
大塚(おおつか) 麻由(まゆ) さん

オリンピックで活躍した選手のように地球環境をよくしている緑にも金メダルをあげたくて、この絵を描きました。

【講評】ステイホームの夏の思い出はコロナ禍の中で開催されたオリンピックやパラリンピック大会。時代に合わせたタイムリーな表現もポスターの大事な要素かもしれません。

最優秀賞

【中学校の部】

「美しい日本の森」

伊勢原市立山王中学校 1年
関西(せきにし) 凰次朗(おうじろう) さん

宝探しをするように、森にカブトムシを取りに行く。昔からある日本の森を、この先もずっと残していきたいという思いで描いた。

【講評】大胆な構図が新鮮です。画面の右半分はアップで描かれた樹上のカブト虫。左半分は虫とりをしている子供達を見下ろしています。虫の視線を感じる作品です。

最優秀賞

【高等学校の部】

「緑ある暮らし」

県立神奈川工業高等学校 2年
宮里(みやさと) 歩花(ほのか) さん

緑に囲まれた暮らしを表現したかった。

【講評】開け放った窓から緑の風が吹いてくるような清々しい作品です。木製の窓や窓枠、蝶番(ちょうつがい)などから作者の生活空間を思い描けるのも微笑ましく思えました。

金賞

【小学校の部】

秦野市立北小学校 6年
須行(すぎょう) 莉梢乃(りこの) さん

伊勢原市立比々多小学校 5年
宮本(みやもと) 琴未(ことみ) さん

【中学校の部】

横浜市立西中学校 2年
加藤(かとう) 瑞月(みづき) さん

伊勢原市立山王中学校 3年
関西(せきにし) 銀一朗(ぎんいちろう) さん

【高等学校の部】

県立神奈川工業高等学校 2年
北條(ほうじょう) やや さん

銀賞 【小学校の部】伊勢原市立伊勢原小1年 鈴木颯馬さん・伊勢原市立比々多小1年 川口夢斗さん・同小2年 石塚大賀さん【中学校の部】藤沢市立藤ヶ岡中3年 中西結瑞さん【高等学校の部】県立小田原城北工業高2年 片山怜海さん

銅賞 【小学校の部】愛川町立高峰小4年 髙橋一真さん・伊勢原市立伊勢原小3年 渡邊湊人さん・伊勢原市立大山小1年 佐治和さん・同小3年 金子樹生さん・伊勢原市立比々多小2年 石井琉三郎さん【中学校の部】座間市立西中1年 熊澤直希さん・秦野市立本町中1年 北出花さん・函嶺白百合学園中3年 石田花怜さん【高等学校の部】県立神奈川工業高2年 家泉茜里さん

佳作 【小学校の部】横浜市立さつきが丘小5年 仲保果音さん・茅ヶ崎市立梅田小1年 岩本莉歩さん・同小1年 堀口楓夏さん・大和市立文ヶ岡小5年 大橋初音さん・厚木市立相川小3年 後藤要さん・厚木市立玉川小1年 二見 駿さん・愛川町立高峰小5年 石津柚乃さん・秦野市立北小2年 菊地啓太さん・秦野市立南が丘小1年 関野菊子さん・伊勢原市立伊勢原小5年 須﨑愛結さん・伊勢原市立比々多小6年 川上莉愛さん・学校法人聖ステパノ学園小5年 木村玲温さん【中学校の部】茅ヶ崎市立第一中1年 橋本悠凛華さん・茅ヶ崎市立西浜中2年 鈴木遥さん・秦野市立南中3年 中西薫怜さん【高等学校の部】県立総合高2年 嶋田果恵さん・県立横浜旭陵高1年 阪元優斗さん

標語コンクール

【総評】今年の作品は「地球」「未来」「大地」をキーワードとしている作品が多い印象を感じました。

最優秀賞

【小学校の部】

「木を植えて
広がる緑
すてきな未来」

箱根町立仙石原小学校 5年
礒﨑 心那（いそざき ここな）さん

【講評】自分で植えた苗木が何年かして緑の枝葉を広げる大きな木になるイメージを持たせてくれます。「すてきな」という言葉があることで、緑化で緑が増えることが自分たちの幸せにつながるという気持ちが作品から感じられました。

最優秀賞

【中学校の部】

「育てよう
みんなの未来と
豊かな緑」

函嶺白百合学園中学高等学校 2年
白窪（しらくぼ） シオン さん

【講評】「みんな」という言葉で仲間を増やして、自分たちの未来と緑が豊かになるように頑張ろう!という周囲を巻き込み緑化を進める大きな意思を感じる作品です。

最優秀賞

【一般の部】

「ひと粒の
種に未来の
ゆめ託す」

真鶴町
佐々木（ささき） 知亜紀（ちあき） さん

【講評】ひと粒に「ひと」、ゆめ託すの「ゆめ」、漢字でも表現できる言葉をあえて、ひらがなを使っていることで両者を対比している表現となっており、エッジの効いた作品となっていると評価しました。

金賞

【小学校の部】

横浜市立菊名小学校 2年
阿部（あべ） 悠人（ゆうと） さん

伊勢原市立大田小学校 2年
竹本（たけもと） 庵（いおり） さん

【中学校の部】

厚木市立依知中学校 1年
井上（いのうえ） 愛梨（あいり） さん

厚木市立依知中学校 1年
成瀬（なるせ）みひろ さん

函嶺白百合学園中学高等学校 1年
永島（ながしま） 凛（りん） さん

【一般の部】

横浜市
男全（おまた） 昇（のぼる） さん

座間市
清水（しみず） 隆（たかし） さん

銀賞 【小学校の部】厚木市立玉川小6年 小寺雪乃さん・伊勢原市立大田小4年 齋木蓮司さん・箱根町立仙石原小3年 勝俣茉音さん【中学校の部】厚木市立依知中1年 東浦羽奏さん・同中2年 成瀬怜奈さん・茅ヶ崎市立鶴が台中2年 和嶋杏さん【一般の部】藤沢市 尾上みほさん

銅賞 【小学校の部】綾瀬市立北の台小4年 藤ノ木奏太さん・伊勢原市立大田小3年 木村快士さん【中学校の部】厚木市立依知中1年 門倉凌牙さん・同中2年 府川結衣さん・同中3年 阿部愛莉さん・同中3年 間瀬和奏さん【一般の部】秦野市 八木実さん

佳作 【小学校の部】大和市立林間小6年 菊地敬翔さん・厚木市立相川小1年 門倉心鈴さん【中学校の部】厚木市立依知中3年 堀咲那さん・函嶺白百合学園中1年 荻野水葵さん・同中3年 土井葵葉さん【高等学校の部】函嶺白百合学園高3年 筒井彩夏さん【一般の部】伊勢原市 瀬戸恵津子さん

緑の募金の使い道を一部紹介します

場所：秦野市菩提峠（ぼだいとうげ）

植栽全景

緑の大使も植栽

第44回 コリドー（緑の回廊）を丹沢から

令和3年10月23日㈯

丹沢での「コリドー（緑の回廊）」を実現するため、NPO法人丹沢自然保護協会が主催となり毎年春と秋に行っている植栽活動に賛同し、第44回秋のコリドーに財団も共催として参画しました。

当日は、天候もよく企業団体、一般参加者合わせて287名がそれぞれ唐ぐわと鎌を手に持ち、広葉樹の苗木を1人あたり3本程度を植栽しました。また、財団からは若い目線で森林林業を広報する新事業「2021かながわ緑の大使」の小林優美さんも参加しました。

場所：相模原市こもれびの森

緑の少年団 交流集会

令和3年11月7日㈰

間伐体験

花の寄せ植え体験

県内の緑の少年団が一堂に集まり、各団の交流を深める交流集会を毎年行っています。今年度は3団体、小学1年生から中学1年生まで44名と指導者が集い、広葉樹の間伐や花の寄せ植え、ネイチャークラフトを体験しました。新型コロナウイルス感染症対策の為、マスク着用での交流会となりましたが、子供たちは初めての体験に目を輝かせ、歓声や笑い声を響かせていました。

みどりのトラスト講座
後編

2021 初夏の小網代の森ガイドウォーク

散策した日　令和３年６月10日(木)

やなぎテラス付近の
ボードウォークにて

初夏をむかえた小網代の森をNPO法人小網代野外活動調整会議代表理事の岸由二さんと散策しました。聞き役は横浜出身の「2021ミス日本みどりの女神」の小林優希さんです。

前編では小網代の森の中央の谷コースの引橋入口からまんなか湿地を巡り、後編ではその途中のやなぎテラスからスタートです。

岸：ここから下流の大きな湿原地帯です。およそ3ha。この湿原にはえる代表的な植物がアシとオギです。今ここに立っているボードウォークをはさんで左右にアシ原とオギ原が形成されています。

小林：見分けがつきません（泣）。

岸：アシは葉っぱが細長いけど、スペードを伸ばした卵型で、湿った土地を好みます。

対してオギも水辺が好きですが、アシよりは乾燥した土

えのきテラス

地を好みます。ススキに似ていますね。細長い葉をつけて、少し先端が垂れたらオギです。

水を誘導してやるとアシ原になりますし、水を抜いてやるとオギ原になるんです。計画的に管理して水分量を調整しているんですね。

やなぎテラスの
看板にてスタート

岸:やなぎテラスの奥に大きな谷が隠れています。このやなぎテラスが第4合流点です。

ここから300mほど下がると「えのきテラス」があります。その間は大きな湿原が続きます。本来は大きな川が形成されますが、湿原保全のために4本の川に分けて流しています。

昔はこの周辺が全部田んぼだったのですが、放置すると水はすぐに侵食して周辺は一気に乾燥化します。するとアズマネザサが繁茂します。オギとアシ、ガマの湿原を人工的に計算して再生しているわけです。

岸:「キョッキョ、キョッキョ・・・」

だいぶ暖かくなってきたから鳥たち鳴き始めたかな。これ、ホトトギス。

「特許許可局」とか、「てっぺんかけたか」とか鳴くって聞いたことある?

小林:初めて聞きました。

岸:ホトトギスはね、ウグイスの巣に卵を産んで、ウグイスの親に子を育てさせる悪い子なんです。托卵(たくらん)というんですが、カッコウ類全般の習性です。なので、ウグイスがたくさんいるところにホトトギスがいるんですね。

小林:ユニークな生態ですね。

岸:さて話を戻して、こちらに標高7mを示す看板があります。これまでの合流点と同じように、水も土もまた倍になって、大きな湿原ができたと言いたいところですが、ここから話が変わってきます。今から6500万年前。この場所は海岸線だったんです。

小林:えっ海岸線?

岸:"縄文海進(じょうもんかいしん)"といって波打ち際がここだったんです。この合流点は海の力、波によって削られた場所なんですね。

地球は寒い時期(冷期)と暖かい時期を繰り返しているんですが、縄文時代に温暖化して海面が上昇したんですね。

今は氷期に入っていて、7万年かけて寒くなっていく途上。今度は海面が下がるという地球のリズムなんですが、人間が影響してか寒くならないね。

やなぎテラスから
歩いて数分

ちょっと面白い植物の群落がありますね。

小林:この白い花はなんですか?

岸:葉っぱの片側が真っ白になる。だから片白(かたじろ)ともいうハンゲショウ。花は先端にある棒状のもので、白い部分は葉っぱなんです。虫に花粉を媒介してもらうために葉がアピールするんです。ドクダミもそうですね。

そしてハンゲショウがこれだけ群落作るのは珍しい。

小林:ということは…

岸:そう、なにか仕掛けがある(笑)。

ハンゲショウはびしゃびしゃな湿地と木陰が好きなので、木陰を作るエノキの木の下に水を通して貯まるようにしたんですね。日が当たるとアシ原になりますが、木陰があって、しっかり水分量を調整して、みんなが大好きなハンゲショウを呼ぶんですね。

自然のまま手を入れないと、乾燥してササで覆われたり、半分以上は外来植物になるんです。外来だからって厄介者扱いするのではないんですが、放っておくと収拾がつかなくなる場合もあるので、目的に合わせて樹木の木陰と水分量を調整してハンゲショウにいてもらうんですね。

さあ、今の海岸線に向かって進みましょう。

少し進んだ途中で

岸:このボードウォーク途中で問題です。

少しずつ海へ向かって田んぼ跡の畔が残り、湿原が段々になっていますね。この上の段のまとまった植物は?

小林:たぶんアシです。

岸:下の植物群落は?

小林:オギ?

岸:そうです。でもおかしくないですか?

上は水があってアシ原だけど、本来、水は下に流れ出るから、水が好きなアシ原が続かないで、乾燥が好きなオギ原が広がってるんですね。なぜでしょう。

小林:うーん、上のアシが水を全部吸っちゃったとか?(笑)

岸:うん(笑)、なかなかの回答ですね。

実は、この畔あたりに区切りがあって底に岩盤があるんです。もしかしたら地下水が岩盤の下に落ちている可能性があるんですね。またもう一つの仮定は、その昔は棚田だったから下段の部分は土を運んできたから地面が高くなって乾燥しているとも考えられるんです。面白いですよね。

岸:さあ、えのきテラスにつきました。

ここで水の流れに最後のお仕事をしてもらっています。ここに集まって植えてあるのが、ハマカンゾウというユリに似た植物です。英語ではデイリリーといい、ニッコウキスゲやヤブカンゾウの仲間です。いま5千株ぐらいありますが、波打ち際に数株残っていたものを救出しました。

この周辺もアレチウリやネズミホソムギなど厄介な植物たちが広がる恐れがありますので、水路を回してハマカンゾウが根付くようにしています。8月になったらいっきに咲きますよ。

小林:楽しみです。見に来たいですね。

岸:さて、ちょっとおさらいですが、やなぎテラスからえのきテラス周辺の湿原は、小網代のスタッフが手を入れ続けているので、この景観を保全できています。

我々が手を入れ始める前、10年前は全部がササに覆われ、その上につる草がかかり荒れ地の状態だったんです。それを2014年のオープンに併せて急ピッチでササを刈りこんで、湿原回復作業を開始した。その時にボードウォークも完成したんです。

それを知らない人は、こんな手つかずの湿原にボードウォークを通して自然破壊だなんでいう人がいるんだよね。こまっちゃう。

小林:そうですね(笑)。

岸:放置したらササに覆われてしまう。嫌なら湿原にしましょう。安全で、魅力的で、しかも生きものも湿原が大好きだからたくさん生息する。そしてあまりお金をかけないで維持できる画期的な管理手法なんです。

河口

ダンスを踊るたくさんのチゴガニ

干潟にて

小林：潮の香！

岸：森があって、上流、中流、下流があって、河口の干潟から海に連なるこの地形は日本列島の基本的な地形ですよね。ここにあるのが日本の原風景なんですね。

　どこにでもありそうだけど、まるごと残っている場所は関東ではここだけ。日本全域でも北海道とか西南諸島にしかありません。

岸：干潟でダンスを踊っているでしょう？

小林：えっ、どこですか？

岸：しゃがんで、足もとをよく見てください。

小林：わっ、ちょっとかわいい…。

岸：チゴガニといいます。

小林：ええすごい数のカニが踊っている!!!

岸：静かに座っているといっぱい踊り出します。お稚児さんの"チゴ"です。正面から見るとかわいい顔をしているでしょ。踊っているのはオス。その横に自分の住まいの穴があって、求愛ダンスしているんですね。

　歩いているやつはメスなんですね。どのオスを選ぼうかって。

おわりに

　流域を巡って感想をお願いします。

小林：あっという間でした。たった1.2キロを歩いただけなのに、多彩な生態系を見られて感激でした。先生たちの緻密な計算により、水分量を変動させて植生が変わる世界を楽しめました。自然なのに人工的、人工的なんだけど自然な森だと思いました。

岸：多自然型流域再生っていうんだけど、都市域における自然保護のやり方のお手本になってくれるといいですね。一般の人が見たら自然なんだけど、よく見ると細かく手が入っているんですね。
自然は予想もしない変動を繰り返すので終わりはありません。ヒトも生きものにとっても素晴らしい自然環境を創出するために、みんなで知恵を絞って、低コストで手入れしていきましょう。

干潟

この記事は、みどりのトラスト講座「6月10日（木）初夏の小網代の森ガイドウォーク」公開動画に収録された解説を記事スタイルに加筆・編集したものです。

プロフィール

岸（きし） 由二（ゆうじ）
慶應義塾大学名誉教授。専門は進化生態学、
流域アプローチによる環境保全、都市再生、環境教育など。
新著に『生きのびるための流域思考』ちくまプリマー新書、2021など

小林（こばやし） 優希（ゆうき）
2021 ミス日本みどりの女神、ミス日本ミス着物、神奈川県出身

参加のための注意事項

イベント・ボランティアの参加にはマスク着用と当日の検温報告をお願いします。また、急な中止・行程変更があることをご了承ください。

▼1つでも該当する場合は、参加を見合わせてください▼

話をするときはもちろん、原則マスク等持参・着用、人との距離をとる。

- ☑風邪の症状がある
- ☑倦怠感(だるさ)や咳、痰、胸部に不快感がある
- ☑味覚、嗅覚に違和感がある
- ☑過去48時間あ以内に発熱の症状がある
- ☑過去14日以内に海外への渡航履歴がある
- ☑同居家族や身近な知人に感染症が疑われる人がいる
- ☑その他、新型コロナウイルス感染の可能性の症状がある

令和3年度 ～2022.3/31　かながわトラストみどり財団

自然観察&体験イベント

財団ツイッターでも開催状況をお知らせしています。

受付期間にお申し込みください。申込みが定員を超えた場合は抽選となります。【雨天の場合】原則として小雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。**【持ち物と服装】**筆記用具、雨具、水筒、必要に応じて、双眼鏡・帽子、長袖、長ズボン、歩きやすい靴でご参加ください。

自然観察会　15人　受付 2022.1/1～1/31

2022年 **3月4日(金)** 9:00～12:30

多摩自然遊歩道を歩く

会員 **無料**
一般 **2,000円**
学生 **1,000円**

【講師】多摩緑地保全地区「こもれびの会」リーダー 加藤敬治氏
【集合】小田急線 読売ランド前駅北口改札前9:00

【コース】読売ランド前駅～多摩自然遊歩道～川崎市農業技術支援センター～寿福寺～JR稲田堤駅または京王稲田堤駅
●みどりの実践団体でもある多摩緑地保全地区「こもれびの会」の緑地保全活動を伺いながら、多摩自然遊歩道を散策します。

自然観察会　15人　受付 2022.1/1～1/31

2022年 **3月12日(土)** 9:00～13:30

横須賀 猿島を訪ねる

会員 **無料**
一般 **2,000円**
学生 **1,000円**
※別途乗船・入園料必要

【講師】NPO法人よこすかシティガイド協会
【集合】京急線横須賀中央駅東口改札前 9:00

【コース】横須賀中央駅～三笠公園～三笠桟橋にて乗船・出航～猿島桟橋～海軍軍港碑～電気燈機関舎～電纜配線施設～石積み切通し～亥の崎台場跡(第一砲台跡～第二砲台跡)～広場～猿島桟橋～三笠桟橋(一旦解散)～横須賀中央駅 ●東京湾唯一の無人島猿島を訪ね、貴重な歴史遺産や自然植生を観察します。
※気象等により欠航になった場合、行先を変更(集合駅～浦賀駅～バス～県立観音崎公園にて自然観察会)

申込先が一般イベントと異なります

森林探訪　【共催】NPO法人かながわ森林インストラクターの会

森林探訪　30人　2022.3/5必着

2022年 **3月12日(土)** 9:00～13:00

春の道保川公園

会員 **500円**
一般 **1,000円**

【講師】NPO法人かながわ森林インストラクターの会
【集合】JR上溝駅改札前9:00

【コース】上溝駅～道保川公園～上溝駅
●道保川の水源と横山丘陵の自然を感じながら、観察会を行います。

【申込先】
NPO法人かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会
〒243-0018 厚木市中町2-13-14 サンシャインビル604号
✉ kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp
【問い合わせ】 ☎090-6150-6173(担当:赤﨑)

【服装】ハイキングができる程度(長袖、長ズボン、帽子)、防水性のある履き慣れた靴　**【申込方法】**●森林探訪名 ●開催日 ●参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、トラスト会員番号を記入し、往復ハガキ、またはメールで。

申込方法　財団主催イベント

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団みどり企画課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
fax 045-412-2300
✉ midori@ktm.or.jp web www.ktm.or.jp

【申込方法】イベント内容をご確認の上、●参加を希望するイベント名●参加希望者全員の氏名・住所・電話番号●会員の方は会員番号、または一般・学生を明記して、**FAX・Eメール・ハガキ・財団WEBサイト**にてお申し込みください。**【雨天の場合】**原則として小雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。**【お願い】集合時間になりましたら出発します。遅れないようご注意ください。**コース内のバス代は各自負担となります。※定員を超える申し込みがあった場合は抽選となります。

令和3年度 ～2022.3/31

森林ボランティア

森へ行こう! 活動に参加しよう!

新たに2イベントを追加しました

※写真はすべてイメージです

塚原　南足柄市 塚原水源林

2022年 **2月19日(土)**　**間 伐**

予備日:なし　50人(先着順) 受付:12/1～

【集合】小田急線 開成駅西口 8:30
専用バスで移動※自家用車駐車場はありません
【行程】開成駅(専用バスで移動)⇒現地⇒開成駅

岩　真鶴町 真鶴町県行造林　緑の募金保全活動

2022年 **3月2日(水)**　**間 伐**

予備日:なし　50人(先着順) 受付:1/4～

【集合】JR東海道線・小田急線 小田原駅西口 8:30 専用バスで移動
星ヶ山公園さつきの郷駐車場 9:30
【行程】小田原駅(専用バスで移動)⇒現地⇒小田原駅
自家用車等にて現地集合・解散あり

【共通事項】
●神奈川県森林インストラクターが指導します。
●現地に駐車場はありません。
ただし「車 🚗 マーク」のあるイベントのみ、車でお越しいただけます。
●雨天の場合、中止や延期する場合があります。当財団録音テープにてご確認ください。

申込方法

県民参加の森林づくり

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団 みどり森林課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
☎ 045-412-2255 fax 045-412-2300
✉ midori@ktm.or.jp web www.ktm.or.jp

【申込方法】申込は活動内容をご確認の上、●参加希望日●参加希望者全員の氏名(ふりがな)・住所・電話番号●森林整備活動登録番号をお持ちの方は登録番号を明記して、**ハガキ・電話・FAX・Eメール・財団WEBサイト**にてお申し込みください。**【雨天の場合】**予備日のある場合は延期、ない場合は中止。**【実施の可否の確認方法】実施日前日の18時以降に、電話(045-412-2255)でご確認ください。録音テープでご案内します。【活動内容】**服装や過去の実施状況をWEBサイトに掲載しております。ご参考にして下さい。

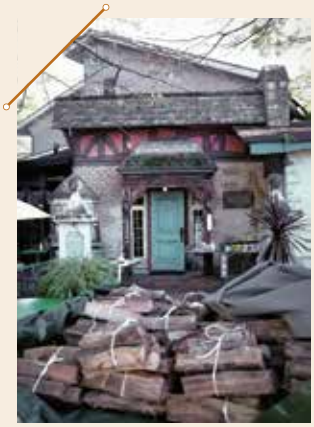
まだ
募集しています！

ナラ枯れ薪の有効活用

～マキ寄附の協力者に配送中～

2021年11月より
開始

初回配達先の庭先ではコナラの株立ちが迎えてくれました。庭先でドングリの実生から若芽が出ていて、感慨深い気持ちになりました。



2件目は久田緑地近所の趣あるカフェでした。お店前の入り口にある薪棚に置かせていただき、カフェの演出に一役買っているようでした。薪はオープンテラスのストーブに利用されるそうです。

カシノナガキクイムシの孔道。ほとんどの薪に小さな穴が見られます。しかし、虫の発生は見られませんでした。

県内各地で「ナラ枯れ」によってブナ科のコナラやマテバシイ、シラカシなど、ドングリのなる木が突然、まとまって枯れてしまう事態が起きています。これは、病原菌を媒介するカシノナガキクイムシという5mm程度の小さな甲虫が原因で、ブナ科の大径木（だいけいぼく）に集団で営巣繁殖し、感染によって枯らしてしまうのです。

ナラ枯れの特徴としては、7月～9月、青々とした緑に、比較的大きな樹木がまとまって枯れているところが見られます。その枯れた樹木の根元には大量の粉上のもの（フラス）が飛び散り、幹に無数の小さな穴が開いています。詳しくは、過去の機関誌「ミドリ」121号、119号で取り上げた記事をご覧ください。

被害にあった樹木は、高い所からの枝折れや倒木などがあるため大変危険です。また、発病1年目はカシナガの集団営巣地として翌年春に大量の成虫を発生させてしまうため特に注意が必要です。そのため、一般的には被害木を伐倒、伐根の上、シートを被せて薬剤を散布し、殺虫殺菌する対処を行います。

財団で管理する大和市の久田（くでん）緑地においても昨年からナラ枯れが見られ、主にコナラが被害にあっています。農地や住宅地に隣接している緑地で薬剤処理は難しいため、冬季に伐採及び薪型に細断することで、冬の寒さと乾燥によって殺虫する方法を実践しました。このほか病原菌を駆逐するとされるシイタケ菌を打ち込む原木栽培も試験的に行っています。調査は継続していますが、現在のところ、処理木からカシナガの発生は見られないことから有効な方法と思われます。

その薪となった木材については、前号ミドリで紹介したとおり「マキ寄附」協力者へ寄附返礼品として提供を開始しました。コナラは燃焼効率も高く薪には最適な樹種であり、薪ストーブや暖炉ユーザーの寄附者の皆さまにも好評いただいています。

ナラ枯れ被害木を焼却処分や処理後に放置するのではなく、再生可能なエネルギーとして資源活用につなげていくことは、世界的な取り組みでもある持続可能な開発目標（SDGs）にも一致しています。樹木は再生可能な資源です。伐採され開けた林床には、光が差し込み新たなコナラが発芽し、生育を始めています。

ナラ枯れ被害は今に始まったわけではなく、古くは江戸時代、ナラ枯れと思われる大量枯死が発生し、村総出で炭を作ったという文献が残っているそうです。カシナガも在来種であり、昭和30年代からの石油・ガスなどのエネルギー利用の転換により、薪炭林が利用されず、手が入らなくなり、樹木が大径木化した所で被害が拡大しています。関東では最近の話ですが、日本海沿岸や近畿地方では昭和の終わりごろから被害が拡大したそうです。

財団でも調査を続け、状況にあわせた処理を行い、良好な自然環境を保全していきます。

////// マキ寄附 //////

在庫がなくなり次第終了します

問合せ 財団事務局 マキ寄附担当 ☎045-412-2525 ✉midori@ktm.or.jp

[寄付額] 2万円以上寄附（発送は無料）
[数　量] 軽トラック1台分～
[薪規格] 神奈川県大和市産
薪1個の長さ40㎝、直径13㎝前後
約1年程度乾燥させたもの。

[発　送] 軽トラック1台分（約350～400kg）、
スタッフ2名で指定場所に下ろします。
[範　囲] 遠方搬送は避けるため、
おおよそ大和市内及び近隣地域の方にお願いします。

紙製手提袋有料化に伴う寄附

京急百貨店より2021年6月から紙製手提袋の有料化に伴う収益の一部を小網代の森へ継続寄附いただけることになり、2021年9月末に株式会社京急百貨店瀬戸店長を小網代の森に案内しました。

株式会社 京急百貨店 様

瀬戸貴生 株式会社京急百貨店店長(左)
岸由二 NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事(中)
当財団　西ケ谷専務理事(右)

京急百貨店は2016年より小網代の森緑地支援会員にも加入したみどりのトラスト会員として支援いただき、毎年、小網代の森の動植物を紹介した写真パネル展や募金活動にも協力いただいています。

現地、小網代の森えのきテラスにて寄附金を贈呈いただきました。
なお、感染拡大予防対策を十分に行い撮影しました。

BOOK 書籍のご紹介

干潟に生きる小さな貝たち～のどかで楽しい不思議な暮らし

小倉雅實 著

小網代の森の干潟の生物について書籍を発行。
30年あまり小網代で実地調査を続けられてこられた著者の小倉雅實さんが小さな貝類の驚きに満ちたライフスタイルを紹介。マニアックで高度な研究内容を豊富な写真やイラスト、マンガなどでわかりやすく愉快に読むことができる。

プレゼント

お便りをいただいた方の中から書籍「干潟に生きる小さな貝たち のどかで楽しい不思議な暮らし」を抽選で3名様にプレゼントします。応募方法は①『123号プレゼント書籍希望』／②機関誌ミドリの感想やご意見など／③〒と住所／④連絡先(電話番号やメールアドレス)／⑤氏名／⑥あれば会員番号／①～⑥を明記し、Eメール、FAX、ハガキにて2月10日(木)までにご応募ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

所得税・住民税の優遇措置について

(公財)かながわトラストみどり財団への会費や寄附は確定申告をすることによって、所得税、住民税の還付を受けることができます。ただし、県民税や市町村民税の控除は各自治体によって異なります。なお、控除額の計算はいずれかを選択することができます。

①税額控除(所得税)

❶ 所得税の減少分
(年間の公益法人等への寄附金総額 − 2,000円)×40%

❷ 住民税の減少分
県民税(年間の公益法人等への寄附金総額 − 2,000円)×2%

(❷の例):横浜市税
(年間の公益法人等への寄附金総額 − 2,000円)×8%

②所得控除

(年間の公益法人等への寄附金総額 − 2,000円)の金額を、その年分の所得から控除するもの。

相続税の非課税 相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10か月)までに寄附された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

財団事業にご支援をお願いします

県民参加の森林づくり事業

ボランティア参加による森林づくり活動や小中高校生の森林体験学習を行うほか、森林インストラクターの養成及び派遣の支援など、県民の森林への理解や森林づくりの参加を促進する事業。

財団は県内各地において、かながわのナショナル・トラスト運動及び県土緑化運動を行い、自然環境、歴史的環境の保全と緑化の推進を図っています。みどり豊かな神奈川にすることを目的に、活動に取り組むため、財団の事業へご支援をお願いします。

小網代の森の観察会

普及啓発事業

かながわのナショナル・トラスト運動及び県土緑化運動を多くの皆さまに知っていただき、活動に協力していただくための事業。

緑地保全事業

緑地所有者との保存契約を行いトラスト緑地の維持管理活動等を行うほか、小網代の森などトラスト緑地の保全を支援する事業を実施。

箱根小塚山緑地の自然再生活動

地域緑化活動事業

地域の市民団体を支援するほか、地域に根差した活動を行うため地区推進協議会を設置。

みどりの実践団体研修会

緑の募金事業

県内で緑の募金運動を展開し、その募金は学校や公共的な場所の緑化、丹沢への植樹等に活用される。

同封の振込用紙の取扱いについて [注意]2022年1月17日より、現金でのお振込みご利用の場合は手数料がかかります。

①本用紙は「キャンペーン用振込用紙」です。会員会費や緑のグッズ募金の振込には使用しないでください。
②振込の内訳に記載がない場合は、財団事業への寄附とさせていただきます。
③領収書等礼状の不要、ミドリ等の掲載不要(匿名希望)の方は通信欄に☑をお願いします。

(公財)かながわトラストみどり財団への寄附金は、所得税・法人税の控除が受けられます

広告

心に安らぎと、うるおいのある質の高い緑空間をご提供します。

介護施設中庭造園工事
H18年完成

H20年度横浜動物の森公園チンパンジー
展示場エリア整備工事　H21年完成

住宅庭園工事
H28年完成

住宅・マンション・公共施設の造園工事及び維持管理業務

hamadaen

株式会社 濱田園

〒232-0066 横浜市南区六ッ川3-3-1
TEL 045-741-3215 FAX 045-741-3464
ham@d.email.ne.jp
URL https://hamadaen.co.jp/

Y-SDGs standard　ISO 9001 14001 JAQ JAB　YOKOHAMA 地域貢献企業　よこはまグッドバランス賞

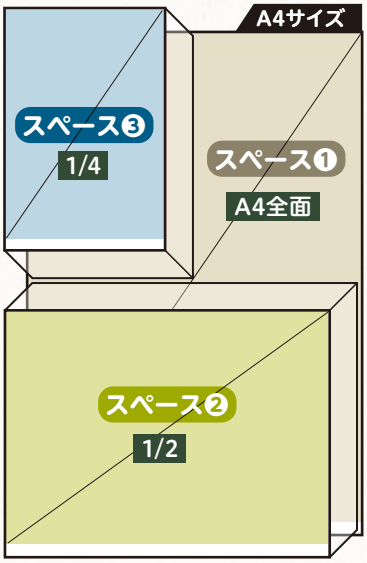
法人・団体会員様を紹介いたします！

法人団体会員など財団事業をご支援いただいている企業・団体様の広告を募集しています。日頃の社会活動をPRする機会としてご利用ください。掲載料は機関紙「ミドリ」の制作費の一部として使用します。

規格 及び 掲載料

規格	サイズ（幅×高さ）	掲載料
スペース ❶	全面広告 （180W×270H）	80,000円
スペース ❷	1/2広告 （180W×130H）	40,000円
スペース ❸	1/4広告 （88W×128H）	20,000円

年4回をまとめる場合は、3回分の掲載料でお受けしております



遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、遺贈を受けた新たな公益事業を行っております。遺言の財産受取人として、当財団をご指定いただけます。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限（亡くなられてから10ヶ月）までに当財団へ寄附された場合、その寄附額の相続税が非課税となります。

寄附の事例

ご遺言「県内の緑化活動に役立てて欲しい（緑の募金事業への指定寄附）」

使途▶森林や緑地の維持管理における竹林整備のため竹粉砕機を導入、貸出事業を行っています。竹を割ってそのまま数ミリ程度に粉砕でき、マルチ材や堆肥などに活用できます。

竹粉砕機

ご遺言「トラスト緑地の保全のために（緑地保全事業への指定寄附）」

使途▶小網代の森等の自然再生活動や環境学習などに活用しています。

公益財団法人 かながわトラストみどり財団
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野2-12-20 TEL 045-412-2525 midori@ktm.or.jp http://www.ktm.or.jp
ミドリ(midori)No.123 冬号 2021　編集・発行：(公財)かながわトラストみどり財団　編集協力：渡部 尚久　デザイン：㈱アド・カジェンス　印刷：㈱大川印刷
ISBN 978-4-9911620-6-0